

2021年度 点検評価改善報告書

[委員会別業務評価]



西南女学院大学

西南女学院大学短期大学部

整理番号	所属	委員会名称	人事委員会			
大短委-2021-01	大学・短期大学部	担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学教員及び助手選考規則第2条				
構 成	委員長	目野郁子	副委員長	劉明	末寄雅美	構成員数
	委 員	目野郁子	稲木光晴	坂田郁子	マルコム・スワンソン	
		劉明	末寄雅美			6

委員会の役割に関する事項（概要）	■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、採用候補者及び昇任候補者を選定する。 ■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、特別契約教員人事を取扱う。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	採用人事	適正な人材の確保（後任補充）		上程	教授会・別科会
	昇任人事	公正な昇任人事の実施		上程	教授会・別科会
	特別契約教員人事	適正な人材の確保（新規、更新）		上程	教授会・別科会
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	円滑な委員会運営				
	採用・昇任選考作業				
	採用予定者との連絡調整				
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	採用人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■本学の採用人事の多くは、後任補充人事である。 ■次期の教育研究体制に支障が出ないよう、適正な人材を確保したい。 ■人事に係る意思決定過程を勘案し、適切な人事作業日程を策定する。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■人事案件ごとに採用選考委員会を組織し、公募要項の作成、応募者資格審査、業績審査、面接、その他リサーチを実施した。■採用選考委員候補者の選出に際しては、専門分野等を考慮したうえで選出根拠を明確にすることを申し合わせた。■当該学科人事委員等においては、適正な人材を獲得するために学内外に対して必要な働きかけを行った。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■人事案件10件のうち、採用候補者を上程するに至ったのは9件（10名）であり、そのうち1件は教授会終了後に採用候補者が辞退した。 ■委員会運営（日程調整、選考・評価作業等）は、人事委員と採用選考委員の連絡調整が適切に行われる中で進められた。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■選考の際に陥りやすいバイアスの影響をできるだけ排除しながら選考を行う。 ■当該学科人事委員は学科及び採用選考委員と適切に連携を図る。			
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■人事委員が学科及び採用選考委員と適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保できる選考を行う。			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		昇任人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
P ↓ D ↓ C ↓ A	計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■昇任人事申請資格者に対して、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を明確に示し、公正に人事が行われるようにしたい。 ■人事情報の適正な管理を行う。			
	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昇任人事に関する申し合わせ事項を作成し、教授会及び別科会で説明を行い、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を周知した。 ■人事委員会において人事日程、申請に係る各種様式、申請資格者情報等を確認し、公正な人事を手続の面からも担保した。			
	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■申請期間及び選考期間の終了までの間、委員会は人事の透明性、公平性の観点からその責務を果たした。 ■選考の結果について、候補者の昇任可否に関する委員会としての根拠を明確にし、教授会の場や対象者に対して説明責任を果たせる態勢を整えている。			
	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■昇任人事に関する申し合わせ事項の評価基準等については、申請資格者に対し、あらかじめ十分に理解が得られるように努める。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。			
項目[事案]		特別契約教員人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
P ↓ D ↓ C ↓ A	計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学評議会による特別契約教員に係る人事方針に基づき、本学の「特色ある教育」の推進と次期の教育研究体制の充実のために、候補者の職位（案）を適切に判断し、教授会に上程したい。			
	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■更新の案件について、大学評議会の人事方針に基づき、当該学科長より提出された推薦理由書等を確認し、教授会上程への手続をとった。 ■新規の案件はなかった。			
	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■更新案件は6件であり、すべての案件で候補者を上程するに至った。			
	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■特になし。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■人事案件ごとに日程管理を行い、法人本部への進達期限を逸することが無いようにしたい。 ■各人事案件を並行して行い、会議の回数を減らし、委員及び関係部局の負担を軽減したい。 ■新型コロナウイルス感染症のBCPレベルに応じて、オンライン会議を実施したい。 ■資料等作成（複製）のためのコストを軽減したい。
	↓	
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昼休み時間帯を活用し、所定の勤務時間外に委員会を開催することを極力避けた。 ■一部会議をオンラインで実施した。 ■人事案件ごとの選考日程は、選考委員会に裁量を与え、十分な日程を確保した。 ■業績資料の閲覧は、書類選考後とし、複製に係る物的・人的コストは低減した。
	↓	
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■採用面接を除き、委員会は所定の勤務時間内に開催された。 ■各委員及び担当部局は、スケジュール調整に柔軟に対応した。
	↓	
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■採用選考の当該学科人事委員による評価表取りまとめに際し、委員会としての統一的取扱いの検討は継続を要する。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■採用選考の評価表様式について、実態をふまえながら引き続き改善を検討していきたい。

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	円滑な委員会運営	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	委員会及び執行機関の役割に関する規程第2条、第5条		
	■委員長と担当部局は連絡調整を密にし、特に日程管理の観点から意思疎通を図った。 ■人事案件に係る学科人事委員は日程、審査、委員会前の事前打ち合わせなど遺漏なく行い、担当部局と学科との仲介者として役割を果たした。			
	項目[事案]	採用・昇任選考作業	決裁・意見・委託・上程の別	決裁
	項目[事案]に係る規程上の根拠	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部教員及び助手選考規則第6条		
	■採用選考委員会は、手続においても、具体的選考作業においても、適切に公正に機能した。			
	項目[事案]	採用予定者との連絡調整	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	■採用承認後の採用予定者との連絡調整について、当該学科の人事委員は学科長と連携して採用予定者と然るべく接触を図るとともに、担当課は法人本部と連携を図って対処した。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教務				委員会
大短委-2021-02			担当部局等	部局等	教務部	課	教務課	
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、教務委員会規程						
構 成	委員長	伊藤 直子	副委員長	池口 功晃		阿南 寿美子		構成員数
	委 員	金山 正子	荒木 剛	青木 るみ子		太田 かおり		
		前田 幸 <td>藤川 信幸</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <th rowspan="2">9</th>	藤川 信幸					9

委員会の役割に関する事項（概要）	■教育の質の維持、向上及び学生の修学上の支援を行うために必要な以下の事項を審議する。 1. 教育課程の編成及び授業に関する事項 2. 学生の休学、復学、退学、卒業及び課程の終了に関する事項 3. 転学部・転学科に関する事項 4. 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する事項 5. 行事日程に関する事項 6. その他教務に関する事項				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	アセスメントポリシーの作成について	教学マネジメントのPDCAサイクルのCの部分の作成		意見	教務委員会
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	学生の動向について	休学、退学、復学、除籍、復籍の審議		決裁	教授会報告
	転学部・転学科について	受入れ可否審議		上程	教授会
	非常勤講師候補者の委嘱について	非常勤講師候補者の委嘱について審議		上程	非常勤講師候補者選考会議
	卒業判定について	前期末、年度末の卒業判定についての審議		上程	教授会
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	アセスメントポリシーの作成	決裁・意見・委託・上程の別	意見	大学教学マネジメント検討会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 2018年度に大きな教育課程の改正を実施し、その際、各学科にDP、CPの妥当性を確認するために、学修成果の測定（アセスメント）について検討してもらっていた。2021年度で、2018年度に実施した教育課程の改正が、完成年度を迎えたため、改めてアセスメントについて検討をお願いした。			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 各学科で検討されたアセスメントについては、大学教学マネジメント検討会でも報告され、各学科で決めたアセスメントを用いて、学修成果の測定とDP、CPの妥当性の確認作業を実施している。			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 実際に作成されているCPは、アセスメントでは測定できないという報告も学科から受けている。また、アセスメントで測定する時期にもよると思うが、決めていたアセスメントではDP、CP測定が難しい（学生生活アンケート、就職先アンケート、国家試験合格率等）との報告ある。			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 現在、各学科で決めたアセスメント、DP、CPの妥当性が確認作業が進められている。今後、妥当性が疑わしものには、どのように対応するかを含めた検討が必要になるかと思う。			
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度見通し					

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				
↓	↓			□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				
↓	↓			□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか					
	P	計 画				
	↓		↓			
			計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		過程の 評価	
	D	実 施				☐ 順 調 ☐ 遅 延 ☐ 未実施
	↓		↓			結果の 評価
			実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C	評 価				☐ 達 成 ☐ 前 進 ☐ 維 持 ☐ 停 滞 ☐ 後 退	
↓		↓				
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A	改 善					
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
委員会が取り 扱った項目「事 案」のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					
	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					
	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					
	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					
	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生				委員会
大短委-2021-03			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「学生委員会規程」第1条						
構 成	委員長	高崎 智子	副委員長	A. ジッツマン	末成 妙子	構成員数		
	委 員	高橋 甲枝	文屋 典子	天本 理恵	A. ジッツマン			
		劉 明	末成 妙子	高崎 智子	三宅 利佳	8		

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の学業指導及び生活指導に関する事項、学生の課外活動に関する事項、奨学生に関する事項、授業料の減免に関する事項、学生の厚生施設及び厚生事業に関する事項、学生の保健管理に関する事項、その他厚生補導に関する事項について審議する。				
	年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別		
	一般奨学生の募集・選考	応募者54名、採用者15名	意見	学長	
	特別奨学生の選考・更新	新規採用2名、修学指導1名	意見	学長	
	学生生活に関する実態調査	11月末～12月実施、2018年度入学者の経年変化分析	決済		
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓				
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	D 実施				
	↓				
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	C 評価				
↓					
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善					
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか限られた時間内で集中した審議を行う。			
	↓	↓			過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 委員長が審議事項の背景、ポイント、参考となる事項を説明した。			
	↓	↓			結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 審議の論点がずれることなく議論が進み、時間の短縮にもつながった。			
	↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 今後も継続して取り組む。				
↓	↓				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	高等教育の修学支援制度	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	継続して支援を受けるためには一定基準の学業成績を収め適格認定を受ける必要があるため、成績不良者に対しては学修指導を強化するよう、学生委員を通じて教員へ周知を図った。				
	項目[事案]	2021年度大学祭	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	昨年は中止した大学祭を、学内関係者のみの参加に限定し規模を縮小して開催した。新型コロナウイルスの感染状況に不安はあったものの、学祭実行委員は感染対策を徹底しつつ主体的に学祭を企画・運営し、成功裏に終えることができた。自粛生活を続けてきた学生たちにとって思い出に残るイベントとなった。				
	項目[事案]	卒業アルバム	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	大学1～2年生を対象に、2021年1月に実施したニーズ調査（オンライン）の結果、ほとんどの学生がアルバムはある方がよいと考えているものの価格の負担軽減を希望していたため、学友会に一人当たり500円程度の支援を依頼した。また卒業延期者の購入辞退を認める方針とした。ただし原則は全員購入であり、学生募集要項にアルバム代金を請求する旨を明記することを確認した。				
	項目[事案]	学生生活に関する実態調査	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	2021年度調査については、「学修支援」「学生サービス」「学修環境」に対する満足度に重点を置いた設問構成に改訂し、記述式を増やした。学生の多様な意見・要望等を把握しやすくすることを目指す。				
	項目[事案]	2022年度オリエンテーション	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	新型コロナウイルス感染対策のために、健康診断を含め各プログラムの日程を過密とらないように設定した。また新たなプログラムとして、新入生支援のために各学科上級生によるピア・サポートを実施する。さらに2022年4月からの成年年齢引き下げを受けて、1～2年次を対象とした消費者教育に関する（オンデマンド）講座を実施する。				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称		就職 委員会		
大短委-2021-04			担当部局等	部局等	学生部	課	就職課
委員会設置の根拠（規程等）		就職委員会規定					
構 成	委員長	高崎 智子	副委員長	高橋 幸夫	藤田 稔子	構成員数	
	委 員	高崎 智子	布花原 明子	文屋 典子	甲斐 達男		
		ブラウン馬本鈴子	高橋 幸夫	藤田 稔子	坂田 美登里	8	
委員会の役割に関する事項（概要）	学生の就職指導に関する事項、学生の就職斡旋に関する事項について審議する。						
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	低学年からの就職意識の醸成	観光2年生と企業との「社会人交流会」実施					
	学内合同企業説明会の実施	学生スタッフ中心に企画運営し、より多くの学生参加を目指す					
	卒業生等アンケートの実施	就職1年目の企業、入職後3年目の卒業生対象					
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	国家試験申し込み方法等の再構築	コロナ禍での願書配布・記入説明等					
	WEBを活用した幅広い学科に向けた就職講座	一般企業に就職する学生対象に開講した就職対策講座（WEB開催）を専門職就職を考える学生に向けて、録画配信					
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	低学年からの就職意識の醸成	決裁・意見・委託・上程の別				
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ◆観光文化学科2年生全員を対象に「社会人交流会」を実施 ◆北九州市内に本社・拠点を置く企業から学生に「仕事」「会社」「働き方」などについて話してもらう ◆低学年の学生が前向きに幅広い視野をもって、就職活動に臨める環境を整える					
	↓						
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ◆授業開始前までに企業担当者を直接訪問し、内容説明した上で協力要請 ◆全5回実施するにあたり、1日4社。計20社に依頼 ◆授業「キャリアデザイン論Ⅰ」の中で事前講義⇒グループワーク⇒体験⇒プレゼン ◆社会人との面談から学び、より多くの業界・企業について知る					
	↓						
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ◆参加学生の多くが社会人に質問するハードルを乗り越えることができた ◆WEBでの取組みで、学生はオンカメラで人の話をどう聞くのか、どんな表情で質問するのかを学んだ ◆副産物として、グループワークのあり方、プレゼンのまとめ方などを習得した					
	↓						
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ◆2年続けて実施した「社会人交流会」はコロナ禍での実施となったため止む無くZoomで開催 ◆次年度はすべての活動を対面で実施できることを願う ◆対面実施となった場合にはWEBでの注意点や実施方法をレクチャーする機会を設けたい ◆これまで同じ授業を体験した現3年生の就職活動にどう活かされているかを検証する必要がある					
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ◆2年続けて観光文化学科2年生に実施し、成果を感じている ◆英語学科に提案したが、カリキュラムにあわず実施が難しいと現時点で回答をえている ◆人文学部学生は一般企業に大半が就職するので、何とかして英語学科にも実施できる方法を模索したい					

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	学内合同企業説明会の実施	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善 次年度見通し	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	◆1,2年の学生に広く学内合説スタッフの活動を広報し、この活動に参加した学生が就活時の”核”となることを目指す ◆就職活動をスタートする3年生、これから企業・業界を学ぶ低学年学生双方に有意義な説明会を目指す ◆学内合説に参加した企業について、より見識を深める			
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
	◆後期授業開始後すぐに学内合説学生スタッフを募集するための説明会を開催 ◆英語学科、観光文化学科、栄養学科から総勢16名の学生がこの活動に参加 ◆月曜日昼休みにミーティングを開催し、できるだけ学生が考えて合説準備できるよう支援 ◆対面開催の予定で準備したが、WEBで2日間の開催となった			☒ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
	◆学内合説に招待する企業を学生スタッフ目線・就活生目線で考え、依頼 ◆幅広く参加者を募るために1～3年すべて（看護学科除く）に周知したことで、人文学部以外の学生に参加者が増加 ◆合説スタッフのミーティングは基本WEB。2回のみ対面実施。対面で顔を合わす方がより連帯感が強まった。			☐ 達成 ☒ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	◆5年間合説準備を後期から開始。もう少し早くから学生スタッフを募集してみたい。 ◆今年度全員が2年生だったため、次年度は全員が初めて合説を経験することになる。 ◆コロナ禍での開催は初めからWEB開催と決めて実施してもよいのではないか。対面の良さ、WEBの良さを改めて検証して次年度に活かしたいと思う。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	◆次年度の学生スタッフ募集に関して、学科就職委員から推薦される学生にも参加してほしい。 推薦される学生は、就活で苦勞する可能性が高い学生を希望する。 ◆学内合説を対面開催するのかWEB開催するのか、始めから決定して準備していくことも考えておく			
項目[事案]	卒業生等アンケートの実施	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善 次年度見通し	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	◆卒業後1年目の卒業生が入職している受け入れ先、卒業後3年目の卒業生にそれぞれアンケートを依頼し、今後の就職指導や大学授業に活かしていきたい ◆北九州周辺の就職先（とくに一般企業）には直接訪問して内容説明とともに卒業生評価等を聞き取りし、リアルな感想を聞き出す			
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
	◆卒業後3年目の卒業生からのアンケート回収率が低いことが最大の課題 ◆昨年から郵送とWEB回答の2本立てで実施 ◆とくに回収率の悪い人文学部卒業生には一人ひとりメッセージを送り、アンケート回答の協力を求めた ◆就職委員から学科教員にも協力を仰いだ			☒ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
	◆例年回収率が悪い人文学部2学科からの回収率がずいぶん改善された ◆先生からの口コミ、友人からの口コミ等、できる限りアンケートについて広めた ◆就職先からは求人にもつながるためか、ある程度の回収率は保たれていた			☐ 達成 ☒ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	◆今年度卒業式にて3年後のアンケート回答に協力していただきたい旨、先生方から情報を共有 ◆就職課でスマートフォンを1台購入し、卒業生や採用担当者との連絡に使用していきたい ◆アンケートの存在を在学中からアピールしておくことが重要 ◆学科へのフィードバックから授業改善や、就職課での取組みを精査			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	◆次年度も同様に実施する予定。卒業生への告知は大学ホームページにも記載 ◆卒業生向けのコンテンツを充実させる			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか ①看護師・保健師・助産師②社会福祉士・精神保健福祉士③管理栄養士 各国家試験の願書配布、願書記入など一連の手続きを効率よく実施する。
	↓		
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 対面で願書申し込みを開催する場合、事前準備することを就職課：各学科クラスルームにアップしておく。大学で対面にて願書記入。その場で少人数ずつ確認し、記入漏れやミスを確認することですぐに訂正し、願書を提出させる。（これまでは国家試験願書の記入についての説明会実施➡その後提出締切を設定し就職課提出だった。）
	↓		
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か コロナ禍でもあり、少しでも来校回数や時間を短縮することにつながった。また、その場で確認し願書提出するため、効率もよく間違いも減った。
	↓		
	A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 国家試験願書は大学でとりまとめて提出しなければならない。学生に事前準備、確認等を早期に告知し、確実に記入できる準備をさせることが重要。さらに教務課や各自治体との連携も事前準備を確実にすることで時間的余裕をもって願書提出、受験後の自治体からの書類返送等が確実にできる。国家試験要項から早期にスケジュール管理を大学全体で考えていくことをより確実にしていきたい。
		次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 今年度、管理栄養士国家試験後に提出する「栄養士申請の書類」を教務課の卒業判定日を前倒ししたことで、自治体との連携がスムーズだった。次年度も国家試験に関するスケジュール発表にあわせて、教務課に協力を請う予定。学内での連携は重要である。

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	大学宗教				委員会
大短委-2021-05			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「大学宗教委員会規程」第1条						
構 成	委員長	東 彩子	副委員長	山田 志麻	神崎 明坤	構成員数		
	委 員	新谷 恭明	金谷 めぐみ	山田 志麻	神崎 明坤			
		東 彩子				5		

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の宗教指導に関する事項、その他宗教に関する事項について審議する。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	コロナ禍における、大学・短期大学部チャペルの企画・検討・運営	奨励者の選定、学生の指導等		決裁	
		講師の工夫・動画配信の工夫			
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	クリスマス募金	学内クリスマス募金のための募金活動の企画・検討・実施		決裁	
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
		■キリスト教に基づく本学の教育の中で、特に重要な意味をもつチャペルアワー（ミッションデー・クリスマス礼拝等の特別行事を含む）をコロナ禍においても継続して営むために、実施方法、内容を企画・検討し、学生・教職員にキリスト教の福音に接する機会を十分に設ける。			
	↓				
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか			
	D 実施	■前期は昨年に引き続きYouTubeを用いたオンデマンド式でチャペルを実施し、動画制作は宗教主事が行なった。（短期大学部の最終回のみ対面で実施）。講師選定は、YouTube動画制作に同意していただける方、外部講師は自ら動画を撮影して送ってくださる技術のある方に絞った。			
■後期は木曜日が対面授業の学生はマロリーホールでの対面と331教室での中継で実施し、木曜日が遠隔授業の学生はGoogle Meetを用いた自宅からのライブ参加方式をとった。教職員は2階席か遠隔での参加方法をとった。					
↓	■後期の中継・ライブ配信と録画のYouTube化はキリスト教センター事務室が行い、学生課と宗教委員会メンバーが補助にあたった。Universal Passport や学内LANへの掲載作業は学生課が行い、宗教主事がGoogle Classroomを通じて全学科の学生の感想文収集や出欠確認を行った。なお、出欠確認はキリスト教学担当の非常勤講師にもご尽力いただいた。				
	■クリスマス礼拝は1年生全員と2年生以上の希望者、また教職員が全員、ソレイユホールにて対面で実施できた。				
↓	■講師への依頼文送付・謝礼の支払い等講師に関する事項、チャペル週報・ポスター作成、実施におけるマロリーホールの機材やライブ配信に関するパソコン操作等は、キリスト教センター事務室が行なった。				
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
	＜前期＞ ■YouTubeチャペル礼拝では、大学・短大、学生・教職員という立場を超えて、ひとつとなって礼拝を行い同じメッセージを聴くことができた。 ■通常、経費的にお招きできない遠方や海外の講師などに奨励をお願いすることができた。				
↓	■通常ではチャペルに参加できなかった教職員の方も、1週間のオンデマンド配信によって、チャペルの講師を勤めていただいたり、礼拝に参加することが可能となった。				
	■Google Classroomにて1年生全員の感想を毎回収集したが、通常のチャペルより落ち着いて向き合うことができるためか、例年より記述の量が多く、内容も濃いものであった。				
↓	＜後期＞ ■対面で実施可能となったため、対面チャペルに参加できた学生からは、祈りや賛美等、対面の良さについて多くの反響があった一方、遠隔を強いられた学生からは、チャペルでの恵みと同時に、やはり対面で参加したかった、との声が多くあがった。				
	■前期と同様、Google Classroomにて感想を収集したが、質のよい感想文が多く、実施方法は3種類に別れたものの、チャペル実施を通して、全体的に学生のキリスト教教育の質の担保が行われたことが見受けられた。				

■順調	過程の評価
□遅延	
□未実施	
■達成	結果の評価
□前進	
□維持	
□停滞	
□後退	成進維持滞退

	↓	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学生のチャペルの感想について「キリスト教センターだより」にて一部匿名で公開したが、少数であったため、次年度は、感想の公開方法を宗教委員会にて検討し、チャペルでの祝福が、学生・教職員の心に留まる方法を考えていく。 ■なるべく多くの学生が均等に対面チャペルに集えるよう、対面授業再開後のシミュレーションを綿密におこなう。 ■チャペルの録画は本学の財産でもあるため、今後、録画の活用方法を検討していく。	
	A 改善		
	次年度見直し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見直し ■来年度は対面とオンデマンドの併用を計画しているが、学生の出欠確認が曖昧になる可能性があるため、この点を検討していく。また、大人数対象のGoogle Meetでのライブ配信には限界があるため、対面が叶わないグループに関しては、ライブ配信ではなく、録画をYouTube化し、オンデマンド方式で実施する。	

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか		
	↓	↓		過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
	↓	↓		結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	↓	↓		
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
	次年度見直し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見直し		
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか		
	↓	↓		過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
	↓	↓		結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	↓	↓		

	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと
	次年度見直し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見直し

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか ■キリスト教に基づく女子教育に沿った全学的なチャペル計画を策定した。
	↓	↓
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■外部講師の人選について、宗教主事は、院長、学院宗教主任、学長に内諾を得て、宗教委員会で意見を聴取し、承認を得た。
	↓	↓
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■当初の計画どおり前期はYouTubeチャペル、後期は短期大学部は対面での実施、大学は3グループ(マロリーでの対面、331教室での中継、遠隔授業日の学生にはGoogle Meetによるライブ配信)にわけ実施し、コロナ禍の中でもチャペルを絶やすことなく実施できたことは大きな成果であった。
	↓	↓
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■コロナ禍においては、讃美歌を歌うことが全体として難しかった。学生が興味を持ち、感染予防をしつつも自らも賛美に加わることが可能となることを願い、チャペルの充実を目指す。来年度は100周年記念として、日本バプテスト連盟の「新生讃美歌」が導入されるため、学生の賛美の改善にも期待したい。
	次年度見直し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見直し

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	研究紀要				委員会
大短委-2021-06			担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課	
委員会設置の根拠（規程等）		紀要規程第4条、研究紀要委員会規程						
構 成	委員長	命婦恭子	副委員長	岡田和敏	ブラウン馬本鈴子		構成員数	
	委 員	溝部昌子	岡田和敏	八木康夫	ブラウン馬本鈴子			
		委 員	命婦恭子	垂水典子				6
		委 員						

委員会の役割に関する事項（概要）	■研究紀要原稿の募集に関する事項、研究紀要の編集に関する事項、研究紀要の刊行に関する事項、研究紀要の発送、整理及び保管に関する事項を審議する。
------------------	--

年度重点項目 [事案]に関する 事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	紀要編集・発行について	紀要編集・発行についての確認	決済	
	査読候補者の選考について	内諾方法について	決済	

年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱っ た項目[事案]に 関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

項目[事案]		紀要編集・発行について	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2018年度から試行期間として変更した日程で、引き続き編集作業を進める。4月に原稿募集を行い、教員が余裕をもって論文執筆や査読後の修正にあたることのできるスケジュールになっている。			
	↓	↓			
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■4月12日に専任教員及び助手に原稿募集のプリントをメールボックスに配布して行った。学内LANにも掲示した。			
	↓	↓			
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■申込件数は、22件と昨年度より3件減少した。原稿提出締切での辞退は7件だった。 ■Vol.26（2022）は、10件の掲載となった。■コロナ禍であったが、ほぼスケジュール通りに編集、発行を行うことができた。			
	↓	↓			
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2022年度も原稿募集を行い、締め切り前に再案内を行う。■投稿申込の締切日の再案内を学内LANで行う。			
次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	査読候補者の選考について	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 査読候補者への査読依頼は、研究紀要委員長名で書面で行ってきたが、事前に学科の委員が口頭で内諾をとることになっていた。しかし、オンライン授業などで顔を合わすことが難しいことと、委員によって依頼の仕方が異なるため、内諾の段階から一律に文書で行うように変更する。			
	↓	↓			過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 査読候補者の選考については、2回の委員会で協議を行った。1回目の協議終了後に委員が各学科の査読候補者に内諾をもらったが、2回目の委員会で行き違いが判明したため、2回目の協議で依頼が決まった査読候補者からは、図書課からメールを送信し、内諾をもらうこととした。			
	↓	↓			結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か これまで査読候補者に話がきちんとされておらず、いきなり正式な依頼となってしまうこともあったため、図書課の業務は増えるが、後からのトラブルを防ぐことができる。はっきりとした回答がもらえるため、確認も行いやすい。			
	↓	↓			成 進 持 滞 退
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 2021年度は、途中から変更となったため、件数が少なく、問題となることはなかった。2022年度は査読候補者全員にメールで依頼することになるため、問題点が出てきたときに、すぐに協議を行う。			
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
↓	↓			成 進 持 滞 退	
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「西南女学院大学紀要Vol.26」の発行を目標とし、編集・発行業務が円滑に進むよう年間スケジュールを作成する。■2018年度から試行期間として開始した「紀要編集・発行日程」で作業を行う。		
	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■紀要原稿の募集、編集、発行及び他大学への送付を年間スケジュールに沿って行った。■委員会だけではなく執筆者、査読者にも年間スケジュールを配布し、円滑な編集作業に協力を求めた。		過程の評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■編集、発行にあたり、原稿提出までは、スムーズに進んだ。■これまで各学科の委員から査読候補者に内諾を得ていたが、行き違いが出てきたため、図書館からメールで依頼することになった。■投稿された論文について、倫理審査委員会の承認の有無についてのチェックの必要が出てきた。■2021年度は図書課の担当者が1人加わったため、ほぼスケジュール通りに進めた。		結果の評価 □達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■その年度によって、投稿申込数や提出論文数が変わるため、次年度も状況を確認しながら、1本でも多くの論文の掲載ができるよう確認や案内を行う。■論文の掲載順について、意見が出たため、検討を行う。■論文提出時のチェックリストに倫理審査委員会の承認についての欄を設ける。			
次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■査読の依頼については、内諾から図書館から査読候補者にメールで依頼する。■倫理審査が必要な論文については、倫理審査を受けてからの研究開始となるため、査読に進む前に判断する必要がある。執筆者本人の倫理審査についてのチェックリストを作成する。			

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	公開講座				委員会
大短委-2021-07			担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		公開講座委員会規程						
構 成	委員長	末成 妙子	副委員長	青木 るみ子	大谷 浩	構成員数		
	委 員	中原 智美	杉本 有紗	青木 るみ子	大谷 浩			
		末成 妙子				5		

委員会の役割に関する事項（概要）	■公開講座委員会は、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部全体として主催又は共催する公開講座に関する事項を審議する。
------------------	---

	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]に関する 事項	公開講座の開催	シニアサマーカレッジの開催	決裁	本部事務局長
		(北九州市社会福祉協議会との委託契約)		

年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱っ た項目[事案]に 関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学学則第55条及び短期大学部学則第51条に則り、公開講座（シニアサマーカレッジ）を開催する。			
		計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新型コロナウイルス感染症の影響で、シニアサマーカレッジ（北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催・本学共催）は中止となった。（新型コロナウイルスが収束していない状況下で重症化リスクの高い高齢者を対象としたシニアサマーカレッジの開催については、「開催見送りが妥当」とCOVID-19対策班が判断した。）		過程の 評価	☐ 順調 ☐ 遅延 ☒ 未実施
		実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 特になし。		結果の 評価	☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
		評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 特になし。			
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■アンケート結果及び周望学舎の要望・意見を基に、講座形態等を工夫し、コロナ禍においても、シニアサマーカレッジが開催できるように検討する。 ■受講生の確保（新規・リピーター）に努める。			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				
↓	↓			□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				
↓	↓			□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、シニアサマーカレッジ(北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催)を開催する。		
	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新型コロナウイルス感染症の影響で、シニアサマーカレッジ(北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催・本学共催)は中止とした。■2022年度の開催に向けて、2019年度シニアサマーカレッジの参加者37名に市民カレッジの案内及びはがき(暑中お見舞い・クリスマス)を郵送した。		過程の 評価 □順調 □遅延 ■未実施
	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■シニアサマーカレッジは中止となったが、2020年10月に2019年度シニアサマーカレッジ参加者37名に対して実施したアンケートの調査結果を配付し、2022年開催に向けて検討を開始した。		結果の 評価 □達成 □前進 □維持 ■停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■引き続き、本学が社会貢献を果たせるよう、シニアサマーカレッジの開催を前提とした委員会の運営に努める。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。		
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教職課程				委員会
大短委-2021-08			担当部局等	部局等	教務部	課	教務課	
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、教職課程委員会規程						
構 成	委員長	新谷 恭明	副委員長	太田 かおり	命婦 恭子	構成員数		
	委 員	一期崎 直美	杉谷 修一	西丸 月美	永原 真奈見			
		伊藤 直子（陪席）	藤川 信幸（陪席）			9名		
委員会の役割に関する事項（概要）	1. 教職課程の編成、講義及び実習に関する事項 2. その他教職課程に関する事項							
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	再課程認定の経過処理（申請）	経過措置を受けての対応			文科省への申請			
	ICT科目の教職課程への導入	施行規則の改正に合わせて			文科省への申請			
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	教員採用試験について	教員採用試験結果の報告			意見			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	最課程認定への経過処理（申請）	決裁・意見・委託・上程の別		文科省への申請			
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 文科省の再課程認定については、2019年4月から大学が教員（非常勤講師1名）の業績の追加、短期大学部は、教育課程の変更を含めた経過措置を受け、適用が認められた。2022年9月末までの経過措置に対応する必要があったため、2021年9月までに対応することを決めた。						
	↓						過程の 評価	
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 大学の非常勤講師1名については、本学紀要への投稿をお願いし、文字業績の準備、短期大学部においては、教育課程の改正準備及び教員の業績確認の対応をお願いした。						
	↓						結果の 評価	
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 大学の非常勤講師1名については、予定どおりに本学紀要に掲載され、短期大学部では、教育課程の変更に伴い、保育士課程の変更届と再課程申請の準備となった。大学、短期大学部ともに再課程申請（保育士課程の申請も）を行い、申請後に文科省の指導に従って、修正等の対応を行い、無事に承認された。						
	↓						■達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退	
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 目標は達成した。今後も学生取得の免許状に関係することなので、文科省の動きに注視していきたい。また、先生方とも十二分に相談しながら、課題解決を進めていきたい。						
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し						
	次年度見通し							

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	ICT科目の教職課程への導入	決裁・意見・委託・上程の別	文科省への申請	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 文科省の施行規則の改正により、教職課程にICT科目の導入が必要となり、教職課程委員会第1回で、新谷委員長に「ICTと教職課程のこれからについて」ということで、施行規則の改正に至った経緯について解説をいただいた。それを受け、改正の準備を進めることとした。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか まず、会議以外で委員が集まり、科目名称と配当時期について検討を進めた。第2回教職課程会において、配当時期は、1年生後期、科目名称は、「ICT教育方法論」で進めていたが、名称については、文科省の例を参考にした方が良いということで「教育におけるICT活用」とすることとなった。			■順調 □遅延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 学内会議を経て、文科省に変更届を提出し、無事に承認をいただくことができた。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 目標は達成できた。今後も先生方と情報共有しながら、課題解決を進めていきたい。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			□順調 □遅延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			□達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	P	計 画			
	↓		↓		
	D	実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		
	↓		↓		
	C	評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		
↓		↓			
A	改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
委 員 会 が 取 り 扱 っ た 項 目「事 案」のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	大学キャンパス・ハラスメント防止・対策				委員会
大短委-2021-09			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「大学キャンパス・ハラスメントの防止及び対策に関する規程」第5条						
構 成	委員長	新谷 泰明	副委員長	神崎 明坤	篠木 賢一	構成員数		
	委 員	新谷 泰明	西丸 月美	甲斐 達男	神崎 明坤			
		篠木 賢一	高崎 智子	三宅 利佳				
						7		
委員会の役割に関する事項（概要）	キャンパス・ハラスメントの防止のための研修、調査及び啓発活動に関する事項、キャンパス・ハラスメントに関する相談及び問題解決のための手続きに関する事項、調査結果の報告及び対応策の勧告に関する事項、その他キャンパス・ハラスメントに関する事項を審議する。							
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別						
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか						
	↓	↓					過程の 評価	
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか						
	↓	↓					結果の 評価	
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か						
	↓	↓					□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退	
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと						
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し						
	次年度見通し							

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか 本学の構成員が個人として 尊重され、快適な学習、 教育、研究及び就労環境 の確保を図るため、 キャンパス・ハラスメント の発生を防止するとともに、 キャンパス・ハラスメント に起因する問題が生じた 場合、適切な措置を講じる。			
		↓				
	D	実施	計画(P)を達成するために 「誰が」「何を」「どのよう」 に行ったか キャンパス・ハラスメント 防止啓発のためのリーフレット を作成し、相談員一覧を UNIPA及び学内掲示板に 掲出し、相談窓口の周知 を図った。また、教職員 対象の研修を企画・実施し、 キャンパス・ハラスメント に対する理解を深めるよう に努めた。			過程の 評価
		↓				
	C	評価	実施(D)によって計画(P) は達成・前進したか / 達成・ 前進していない理由は何か キャンパス・ハラスメント の事案が発生しないよう に学生と教員の適正な コミュニケーションをはか ることができるようなシ ステム作りを見なおす 必要がある。2022年3 月4日に教職員対象の 研修を、新型コロナウイルス 感染防止の観点から、 オンラインで実施する 予定である。			結果の 評価
		↓				
A	改善	評価(C)をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 学生・教職員に対して ハラスメントに関する 啓発活動を継続し、 特に学生からの被害 相談に対しては、 問題解決に向けて 迅速に対応するの はもちろんである が、相談窓口の あり方、学生 とのオンライン での指導、 授業評価など、 学生と教員の コミュニケーション 倫理を確保する システムを再 構築する。また、 ハラスメント について相談し やすい環境づく りに努力する。				
	次年度 見通し	次年度における計画（P） の修正・変更・廃止の 見通し				
委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]	ハラスメント防止セミナー	決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	国際交流委員会			
大短委-2021-10			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「国際交流委員会規程」第1条					
構 成	委員長	高崎 智子	副委員長	マルコム・スワンソン	末成 妙子	構成員数	
	委 員	溝部 昌子	梶原 浩介	藤和 太	マルコム・スワンソン		
		神崎 明坤	末成 妙子	高崎 智子	三宅 利佳	8	

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の海外研修に関する事項、海外の大学等との国際交流協定に関する事項、外国人留学生の受け入れに関する事項、学生の海外留学に関する事項、その他国際交流に関する事項を審議する。			
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	中国協定校との交換留学	2021年度の学生派遣可否についての検討		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画			
	↓	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		
	↓	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		
	↓	↓		
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し		

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか限られた時間内で集中した審議を行う。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 委員長が審議事項の背景、ポイント、参考となる事項を説明した。			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 審議の論点がずれることなく議論が進み、時間の短縮にもつながった。			結果の 評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 今後も継続して取り組む。				
次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	中国協定校との交換留学	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	2020年より続くコロナ禍において現地の支援体制等を確認できていないこと、および中国側の学生の意向より、2020年度に引き続き2021年度も派遣・受入れともに中止した。2022年度の再開に向けて安全対策・支援体制等を再構築していく必要がある。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生募集				委員会
大短委-2021-11			担当部局等	部局等	入試部	課	入試課	
委員会設置の根拠（規程等）		会議規則第39条、学生募集委員会規程						
構 成	委員長	今村浩司	副委員長	塚本美紀	笠修彰	構成員数		
	委 員	石井美紀代	隅田由加里	上村眞生	高口恵美			
		天本理恵	相良かおる	Sullivan	林裕二	15		
		八尋春海	古賀玉緒	池田佐輪子	入試課長			

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生募集に関する事項について審議する。							
------------------	----------------------	--	--	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	入学者選抜説明会	高等学校教員対象の大学及び選抜概要説明	決済	
	高校訪問	高校進路指導部訪問による情報提供及び収集	決済	
	オープンキャンパス（OC）	高校生、保護者向けの大学紹介・授業体験	決済	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	模擬講義への出講	高等学校に出向く形式の大学講義の実施		
	学科ブログの運営	公式ウェブサイトへリンクするブログの更新		
	学生スタッフの推薦	OCで協力してもらう学生スタッフの選出		
	学科独自の募集企画	学科特性を重視した募集活動の実施		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	入学者選抜説明会	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
		■高等学校教員を対象に大学概要と次年度選抜概要の説明を行ない、本学の教育に興味関心をもってもらくことで志願者増及び入学者確保につなげたい。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか			
		■新型コロナウイルス感染症の拡大のため、6月中旬から下旬にかけ、北九州市（本学）、福岡市、大分市の3会場での開催を予定した。 ■各会場に学生募集委員、入試課員が出向き、教育内容と選抜概要をパワーポイントと印刷物を用いて説明すること、ならびに地区別の進路・就職状況を報告し、質疑応答を準備した。 ■本学会場では学内施設見学希望の有無を事前に聴取し、説明会終了後に希望する教員を主な学内施設への案内を準備した。 ■いずれも新型コロナウイルス感染症の拡大のため、予定中止し、オンラインによる代替の入学者選抜説明会を開催した。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
		■オンラインでの開催は他課の協力も得て、概ね成功した。参加校の教員から、移動時間などを考えることなく参加できるため、「たすかる」といった好意的な意見も多数いただいた。一方、個別の質問等などが出来ないというオンライン開催のデメリットの意見もいただいた。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
		■新型コロナウイルスの感染状況によるが、オンラインによる説明会を実施する。ブレイクアウトルームなども活用して、個別質問に対応できる環境も整備したい。 ■高校生、高校教員が求める情報を精査し、限られた時間内で情報提供する工夫をする。 ■高校教員から生徒に的確に本学の情報が伝わるような資料（選抜方法のポイントが明確で理解しやすいもの）を提供する。			
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し			
		■志願者増及び入学者確保を目指すために上記改善案を検討・実施する。			

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

□達成
□前進
□維持
□停滞
■後退

	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■新型コロナウイルスの感染状況によるが開催時間、定員制による参加者数の制限を行わず、例年通りの開催方法に戻していきたい。また、来場型オープンキャンパスと並行してオンラインでのオープンキャンパスも計画する。 ■無料バス送迎（近距離）は次年度も実施する。 ■春のオープンキャンパスは3月末に開催予定。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■上記改善案に従いオープンキャンパスを実施する。

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■例年、4月～6月の各月1回、合計3回の委員会を開催し、学生募集方策等の審議・検討をしているが、各回で提出される議題が多い。 ■議題の提示後、各学科で十分な時間をかけて審議・検討を行ない、効果的な募集方策を実施したい。	
	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学科での審議時間を確保できるよう、1か月の期間において次回委員会を開催している。 ■今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、変更を余儀なくされた募集方策があったため、合計5回開催した。 ■審議・検討の日程が不足すると思われる議題については、前年度3月に学科長に事前提示するものもある。	過程の評価 ■順調 ☐遅延 ☐未実施
	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■学科で審議・検討された結果は、次回委員会の開催までに入試課で取り纏め、会議資料として作成している。よって、学科内で審議・検討する時間・日程は確保できていると考える。	結果の評価 ■達成 ☐前進 ☐維持 ☐停滞 ☐後退
	↓		
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学科で十分に審議・検討が行えるよう、議題の整理や事前提示等について検討したい。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■当該年度の学生募集委員会で検討した方策に従い、学生募集活動を行なう。	

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	学科独自の募集企画	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	学生募集委員会規程第2条		
	■大学パンフレットに掲載していない取り組みや、パンフレットだけでは紹介しきれない取り組みがある学科では独自の学科リーフレットを作製し、高校生に配布している。 ■学科リーフレットを作製しない学科では、入試部と相談のうえ、作製費用の一部を学科独自の募集企画に充当することができる。 ■各学科の教育内容を活かした独自の取り組みを行っている。 ■ゼミ活動を地域活動に連携させている学科もあり、在学生の教育の成果を発表する場として、取り組み状況を公式ウェブサイト等によって学外に紹介している。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教育経費予算配分				委員会
大短委-2021-12			担当部局等	部局等	事務局	課	会計課	
委員会設置の根拠（規程等）		教育経費予算配分委員会規程						
構 成	委員長	財津倫子	副委員長	八尋春海	篠木賢一	構成員数		
	委 員	財津倫子	通山久仁子	藤和 大	アンデリュウ・ジッツマン			
		八尋春海	篠木賢一					

委員会の役割に関する事項（概要）	当年度の確定予算額により、①十分に検討された必要物品及び備品、②実習先への実習謝金、③実習実施に伴う旅費交通費、④専任教員以外の者が行う授業に対する報酬謝金、⑤十分に検討されたその他の経費について審議する。
------------------	---

年度重点項目 [事業]に関する 事項	項目[事業]	当該項目[事業]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	当年度の確定予算額	予算の申請、執行について	決済	
	前年度の実績報告	実績額について	決済	
	次年度の暫定予算	次年度の5月1日現在にて確定	決済	

年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱っ た項目[事案]に 関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

項目[事案]		当年度の確定予算額	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 5月1日現在の在学生数により予算を確定する。			
	↓	↓			
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか 確定した予算内で暫定だった予算編成を各学科で見直す。			
	↓	↓			
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か これまでの予算編成を見直し、予算内での編成を行ってみたが、実習料等、予算内では編成できないということだった。			
	↓	↓			
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 予算内での編成ができないため、学院の状況を鑑みて経費等の削減や予算の拡大に努力する。			
次年度 見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 規程の範囲内で予算編成することが大前提である。既定の範囲内で収まらない理由を明らかにし、規定を改正することも視野に入れて検討を行う。			

過程の
評価

☐順調
☒遅延
☐未実施

結果の
評価

☐達成
☐前進
☐維持
☒停滞
☐後退

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	前年度の実績報告	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、各学部・各学科の予算額を下記の通り算定する。 保健福祉学部および短期大学部は、学生1人当たり納付金額×在籍学生数×1/4×12%である。 人文学部は、学生1人当たり納付金額×1/4×12%×40%である。			
↓				過程の 評価 □順調 ■遅延 □未実施
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか 規程、細則に添って、予算を超過した学科や予算通りに執行できていない（コロナ禍により臨地実習できていない）学科があった。			
↓				結果の 評価 □達成 □前進 □維持 ■停滞 □後退
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 予算計画通りの執行ができなかった。			
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 科目によっては、超過した科目があるため予算の計画の段階でより厳密な予算編成が必要であると考える。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 昨年、会計課指定のフォーマットで学科予算提出をお願いし、フォーマットによる提出はなされているが、各学科の予算編成がバラバラな状況にある。そのため、予算編成方法について会計課より説明を受け、予算編成方法が共通となるよう努力していく必要がある。			
項目[事案]	次年度の暫定予算	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、下記の通り算定する。（当年度5月1日現在の1年の学生数を次年度の新1年生の学生数として、暫定予算額を算定） 保健福祉学部および短期大学部は、学生一人当たり納付額×在籍学生数×1/4×12%である。 人文学部は、学生一人当たり納付金額×在籍学生数×1/4×12%×40%である。			
↓				過程の 評価 □順調 ■遅延 □未実施
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか 各委員に、暫定予算額を提示した。			
↓				結果の 評価 □達成 □前進 □維持 ■停滞 □後退
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各委員より、暫定予算内で予算を提出。暫定予算内に収まらない学科があり、赤字で提出している。			
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 赤字で提出している学科については、暫定予算内に収まらない理由を明確にする必要がある。その他は、計画通りに執行されるよう努める。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか 予算通り執行するよう 努める。				
		↓					
	D	実施	計画（P）を達成する ために「誰が」「何を」 「どのよう」に行ったか 予算訂正の場合は、会 計課において相談を受 け問題なく処理してい る。				
		↓					
	C	評価	実施（D）によって計 画（P）は達成・前進 したか / 達成・前進 していない理由は何 か 予算執行において規 程の予算を超えてい る学科や予算通りに 執行できていない学 科がある。				
		↓					
A	改善	評価（C）をふま えて、次年度に行う べきこと / 行うべき ではないこと 現在の予算執行状 況を確認し、規程の 予算範囲内での執 行に努める。もし くは、規程の改正 を行い、予算枠を 増やす。学院の状 況をみると収入の 根幹となる、学 生の定員充足が 必須であると考 える。					
		次年度 見通し	次年度における計 画（P）の修正・ 変更・廃止の見 通し 予算執行状況を 見直し、改善す べきところは、 規程を改正する 協議を行い、適 正な予算執行を する必要がある。				
委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠						
	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠						
	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠						
	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠						
	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠						

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	倫理審査				委員会
大短委-2021-13			担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		研究取扱規則第3条の2第4項						
構 成	委員長	伊藤 直子	副委員長	ブラウン馬本鈴子		藤田稔子		構成員数
	委 員	伊藤 直子	笹月桃子		通山 久仁子		高崎智子	
		ブラウン馬本鈴子	藤田稔子		植田浩司		菊田彰夫	9
		山崎工						

委員会の役割に関する事項（概要）	■倫理審査委員会規程第2条にもとづき、①研究の実施計画の適否に関する事項、②研究倫理教育に関する事項、③その他倫理審査に関する事項について審議する。研究の実施計画の適否に関しては、同規程第3条に基づき、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部の教員、助手、教育支援職員又は事務職員（以下「教職員」という。）が中心となつて行う人間を直接対象とした研究（以下「研究」という。）が、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に適合しているか否かを審査するほか、当該研究に関連する学会が定める倫理規程等がある場合、研究がその倫理規程等に適合しているかを検討することができる。さらに、教員の指導のもと学生が行う研究で、学会発表あるいは学会誌への投稿が見込まれるものについて、同様に審査する。
------------------	---

年度重点項目 [事案]に関する 事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	研究倫理教育	研究倫理講習会の開催		
	規則及び規程の改正	研究取扱規則及び倫理審査委員会規程の改正	上程	大学評議会

	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱 った項目[事案]に 関する事項	研究の実施計画の適否の審議	人間を直接対象とした研究の適切性の審査	報告	学長

項目[事案]		研究倫理の確立	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■教職員に対して「研究倫理講習会」を開催し、研究倫理の理解を深め適切な研究実施を推進する。同様に学生に対して研究倫理の理解を深める教育を行う。■倫理指針（2022.6.30制定）に則り、研究取扱規則・倫理審査委員会規程及び倫理審査申請に係る申請書類等の大幅な見直しを行うため、その周知を「研究倫理講習会」にて行う。■Google Classroomを利用し「研究倫理講習会」を開催できるよう整備する。		
	↓	↓		
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■2022年3月24日、「研究倫理講習会」をGoogle Classroomを利用して開催した。■本学の研究取扱規則・倫理審査委員会規程（2022.4.1施行）及び倫理審査申請に係る新申請書類等の運用について周知を図るため、伊藤委員長、笹月委員及び高崎委員が講師を務めた。■新入生の『初年次教育』において、研究倫理について学ぶ機会を提供した。		
	↓	↓		
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■Google Classroomを利用した「研究倫理講習会」は115名（外部倫理審査委員、事務担当者を含む）が参加した。講習会に参加できなかった教員9名については、「研究倫理講習会」の録画を視聴することにより、2021年度も「研究倫理講習会」の受講率は100%となった。		
	↓	↓		
A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■引き続き、倫理指針の動向や本学教職員のニーズにあった「研究倫理講習会」を開催し、教職員及び学生の研究倫理の理解を深め、適切な研究の実施を推進する。			
次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■講習会の効果を図るため、参加者に対しアンケートを実施する。 ■新入生の「初年次教育」において、リーフレット（研究活動をする学生・教職員のみならず）を配付する。		

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	研究取扱規則及び倫理審査委員会規程の改正	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■新しい倫理指針(2021.6.30制定)に則った研究取扱規則・倫理審査委員会規程の改正を行う。■研究活動に係る細則やガイドライン等は、重複する内容等の整合性をとり、研究取扱規則・倫理審査委員会規程の中に組み込む。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■研究取扱規則・倫理審査委員会規程の改正にあたり、ワーキンググループ(伊藤委員長・笹月委員・高崎委員)を設置した。■ワーキンググループ及び庶務課で素案を作成→倫理審査委員会(第1回・第2回・第5回・第6回・第9回・第10回)にて意見交換を行った。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■研究取扱規則(案)・倫理審査委員会規程(案)については、第10回倫理審査委員会にて承認し大学評議会に上程した。■倫理審査委員会規程の施行に伴い、「倫理審査委員会迅速審査細則」(2016(平成28)年3月9日制定)は廃止することとなる。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 研究取扱規則、倫理審査委員会規程及び研究活動に係るガイドライン等は、必要に応じて見直しを行っていく。			
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■倫理指針の一部改正(2022.4.1施行)に則った研究取扱規則・倫理審査委員会規程の改正を行う。■研究取扱規則・倫理審査委員会規程(2022.4.1施行)に伴い、「研究に用いられる情報及び試料の保存等に関するガイドライン」及び「個人情報と研究データの取り扱いについて」等の見直しを行う。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
↓					
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
↓					
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
↓					
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■規則、規程及び各種指針等に基づき研究の実施計画の適否を審査する。■委員会は、原則として月1回開催する。■研究に関する審査の結果を審査結果報告書により学長へ報告する。■庶務課は、ウェブ会議システムを利用し、委員会を開催できるよう整備する。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■委員会を13回、迅速審査の委員会を5回開催した。(対面0、ウェブ18)■14件の研究について審議し、通常審査(7件)・迅速審査(4件)に分別した。※1件…報告承認。2件…申請取り下げ。■審査については申請者と面接し、質疑及び助言を行った。■庶務課は、委員会に関する事務等を遅延なく行った。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■通常審査・迅速審査において、新規申請9件、変更申請3件を承認した。また、「審査結果報告書」により学長への報告を速やかに行った。■委員による申請前の事前相談により、委員会→審査→研究開始の流れは円滑であったが、一部の委員への負担が見受けられた。■予定されていた委員会、審査を延滞なく終了した。			
	↓				
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■研究取扱規則、倫理審査委員会規程及び各種指針等に基づく審査を行うとともに、研究者の支援をしていきたい。■倫理審査申請についてまとめた手引「人を対象とする研究における倫理審査の手続き」及び新申請書等を周知することにより、申請者だけでなく、委員による事前相談業務等の負担軽減につなげたい。			
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■委員会は原則月1回開催することとし、申請を定期的に審査できる環境は整っている。委員会が円滑に運営できるよう、委員会開催日程や申請手順等を周知する方法を引き続き工夫する(学内情報ポータルサイト「倫理審査委員会」コンテンツ内の充実)。■新申請書類等の運用により、委員全員が学部学科の括りに関係なく事前相談業務に当たれるようなシステムを検討したい。			
	項目[事案]	倫理審査申請に係る申請書類等の見直し	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠	研究取扱規則・倫理審査委員会規程 ■研究取扱規則、倫理審査委員会規程の改正に伴い、倫理審査申請に係る申請書類等の大幅な見直し(チェックリスト機能を包含するフォーマット作成)を行った。通山委員及び庶務課で素案を作成→ワーキンググループ→倫理審査委員会で見直しを行い、承認を得た。■新申請書類等は、倫理審査申請についてまとめた手引「人を対象とする研究における倫理審査の手続き」に掲載し、研究倫理講習会及び学内情報ポータルサイト等で周知を行う。			
	項目[事案]	情報公開	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■本学公式ウェブサイト「教育情報の公表」として「研究倫理」を設け、「規則」「規程」「申請手順」「委員名簿」「議事録」等を公開し、研究倫理上の社会的責務を果たしている。■本学公式ウェブサイト「研究倫理」に「研究の公開」が出来るように関係部署と検討したい。			
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	動物実験			委員会
大短委-2021-14			担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		動物実験規程第6条第2項、動物実験委員会規程					
構 成	委員長	伊藤直子	副委員長	岡部明仁		構成員数	
	委 員	伊藤直子	岡部明仁	尾上 均	目野郁子		
		天本理恵					
5							

委員会の役割に関する事項（概要）	■動物実験計画に関する事項、動物実験計画の実施状況及び結果に関する事項、動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況に関する事項、その他動物実験の適正な実施に関する事項について審議する。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	適正な動物実験の実施	適正な動物実験と実験動物の飼養保管		意見	学長
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	動物実験施設等の視察	委員会による動物実験施設等の視察		意見	学長
	動物実験実施者に対する教育訓練	基本指針・飼養保管基準に基づく教育訓練		意見	学長
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	適正な動物実験の実施	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
		■学内規程等により、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告を適正に実施する。			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
		■新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、遠隔授業が増え、実験動物を使用する実験（解剖実習）は行われなかった。			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
		■各種マニュアルは整備されており、適正な動物実験を実施できる管理運営体制に問題は見当たらない。			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
		■マニュアルの確実な運用を図り、適切な動物実験を行う。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	■特になし。				

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	動物実験に関する規程等の整備	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長	
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	P 計画					
	↓	↓				過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
	D 実施					☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
	↓	↓				結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
	C 評価					☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	↓	↓				
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
	A 改善					
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別				
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか					
P 計画						
↓	↓				過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか					
D 実施					☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施	
↓	↓				結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か					
C 評価					☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退	
↓	↓					
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
A 改善						
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■動物実験責任者が申請した動物実験計画が動物実験等に関する法令及び機関内規程に適合しているかどうかの審査を実施し、その結果を学長に報告する。また、動物実験計画の実施の結果について、必要に応じ助言を行う。			
		↓				
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、遠隔授業が増え、実験動物を使用する実験（解剖実習）は行われなかった。			過程の評価 □順調 □遅延 ■未実施
		↓				
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■動物実験が実施されなかったが、審査の体制は整っている。			結果の評価 □達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
	↓					
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■今後も動物実験の適正な管理に努める。				
次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。				

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	動物実験施設等の視察	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	項目[事案]に係る規程上の根拠		動物実験委員会規程第2条		
	■動物実験施設の状況について、委員会による視察・点検を行い、問題点を指摘した。				
	項目[事案]	動物実験実施者に対する教育訓練	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	項目[事案]に係る規程上の根拠		動物実験委員会規程第15条		
	■動物実験に関する外部検証の研修会（オンライン）に、庶務課長が参加し、その内容を委員会構成員に報告した。 ■動物実験委員への教育訓練は、動物実験に関する教育動画（北海道大学制作）の視聴により行った。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
項目[事案]に係る規程上の根拠					
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生個人情報保護				委員会
大短委-2021-15			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「学生個人情報保護規則」第14条						
構 成	委員長	鹿毛 美香	副委員長	高橋 幸夫	谷崎 太	構成員数		
	委 員	鹿毛 美香	水貝 洵子	西村 貴子	K. サリバン			
		高橋 幸夫	谷崎 太	高崎 智子	五十嵐 勝	9		
		三宅 利佳						

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の個人情報保護の基本的施策に関する事項、学生の個人情報の適正管理に関する事項、学生の個人情報の開示、訂正及び削除に関する事項、学生の個人情報に係る不服申立てに関する事項、その他学生の個人情報保護に関する事項を審議する。		
------------------	---	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	個人情報の利用目的等の通知	入学予定者に文書を送付、同意書の受領		
	個人情報の取扱い周知	非常勤講師に文書送付（新規委嘱のみ）		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計 画			
	↓	↓		過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		
	D 実 施			☐ 順 調 ☐ 遅 延 ☐ 未実施
	↓	↓		結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		
	C 評 価			☐ 達 成 ☐ 前 進 ☐ 維 持 ☐ 停 滞 ☐ 後 退
	↓	↓		
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		過程の 評価
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施			
↓	↓		結果の 評価
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価			
↓	↓		□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		過程の 評価
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施			
↓	↓		結果の 評価
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価			
↓	↓		□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 「学生個人情報保護規則」等の学内規則の定めによる適正な取扱いについて周知を図るとともに、審議が必要な事案が生じた場合は、国の定める法律やガイドラインに関する正しい理解のもと、実のある審議ができるようにしたい。			
	↓					
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 審議案件はなかった。			過程の 評価
	↓					
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 該当なし			結果の 評価
	↓					
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 該当なし				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし				
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	情報システム管理運用				委員会
大短委-2021-16			担当部局等	部局等	事務部	課	情報システム管理課	
委員会設置の根拠（規程等）		情報システム管理運用委員会規程						
構 成	委員長	五十嵐勝	副委員長	マルコム・ロス・スワンソン			構成員数	
	委 員	吉原悦子	上村眞生	西村貴子		高橋幸夫		
		谷崎太	今村浩司	藤川信幸			9	
委員会の役割に関する事項（概要）	■ ネットワークを含む情報システムの管理運用に関する事項 ■ 情報セキュリティに関する事項 ■ 情報システム利用者の支援及び違反行為に関する事項 ■ 情報処理に係る研修に関する事項 ■ ホームページに関する事項 ■ その他情報システムに関する事項							
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	■ 一般教室への無線LAN拡張工事	4-8号館一般教室及び331教室への無線LAN設置			決裁			
	■ 幼稚園ネットワークVPN接続	シオン山幼稚園の回線変更・VPN接続			決裁			
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	■ 情報処理研修	新任教職員及び新入生に対する情報処理研修			決裁			
	■ 情報セキュリティ講座	新任教職員受講必須の情報セキュリティ講座			決裁			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	一般教室への無線LAN拡張工事	決裁・意見・委託・上程の別		決裁			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 遠隔授業だけでなく、対面授業の中でもGoogleの各種システムを利用した教育が行えるよう、4～8号館の一般教室および331教室に無線LAN『Sweet Spot』を拡張したい。						
	↓						過程の 評価	
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 学生の学修環境の向上のため、教務課と協議を行いながら、授業で利用されるすべての教室に無線LANのアクセスポイントを整備した。						
	↓						結果の 評価	
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 一般教室で無線LANが利用できることで、対面授業内でのネットワーク利用や、遠隔授業を一般教室で受講するなど様々な需要に対応できるようになった。						
	↓						■ 達成 □ 前進 □ 維持 □ 停滞 □ 後退	
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 全授業が対面に戻る次年度からは、学内からのネットワーク接続数が大幅に上昇することが予想されるため、データ通信の状況を監視しながらネットワーク障害が発生しないよう対応していく。						
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■ 特になし						

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	幼稚園ネットワークVPN接続	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画	■附属幼稚園のネットワークは、現在大学構内より屋外無線LANを利用して接続しているが、無線機器の老朽化のため、幼稚園に個別の回線を引き込み、大学内のサーバへはVPNで接続するよう整備したい。			
↓				↓
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施	■附属幼稚園と協議のうえ、インターネット回線の引き込みおよび大学ネットワークへの接続のためのVPN契約を行った。			■順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓				↓
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価	■新たに回線を引くことにより、屋外無線機器の老朽化によって低下していたネットワーク品質を回復することができた。 ■法人システムなど接続が必要なシステムについては、VPN接続で問題なく利用が可能となっている。			■達成 ☐ 前 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓				↓
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善	■システムのクラウド化を検討し、最終的にVPN契約が不要になるよう整備を進めていく。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し	■特になし			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓				↓
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓				↓
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価				☐ 達成 ☐ 前 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓				↓
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し				

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか ■学内の情報サービスを断続することなく提供したい。 ■学生、教職員がよりよく情報サービスを利用できるよう情報システムの充実を図りたい。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■情報システムの保守、障害について、情報システム管理課が対応する。 ■学生が情報サービスをよりよく利用できるよう、遠隔授業システムの運用、ヘルプデスクの設置、情報処理演習室のメンテナンスを行った。			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■発生した障害について、サービスの停止時間を極力短くするよう情報システム管理課によって適切な対応が行われた。 ■情報処理演習室、学生用無線LAN、SWITCH Café、フリーPCスペースは高い稼働率であり、学生サービスの充実の一環として機能した。			結果の 評価 □達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
↓					
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学内ネットワークが敷設されていない1～3号館について、ネットワーク整備の検討が必要である。				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし			
委員会が取り扱った項目「 事例」のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目「事例」	情報処理研修	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目「事例」に係る規程上の根拠		情報システム管理運用委員会規程第2条		
	■新任教職員に対して、情報処理研修を実施の上アカウント発行を行った。 ■新入生については、オリエンテーションが中止になったため、前期は仮アカウントにより学外でのシステム利用を行い、後期の開始に合わせ、Google Classroomでオンデマンド型の情報処理研修を実施した。				
	項目「事例」	情報セキュリティ講座	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目「事例」に係る規程上の根拠		情報システム管理運用委員会規程第2条		
	■新型コロナウイルス感染症拡大の影響で前年度実施ができなかった情報セキュリティ講座について、Google Classroomでオンデマンド型の講座を実施した。				
	項目「事例」		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目「事例」に係る規程上の根拠				
	項目「事例」		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目「事例」に係る規程上の根拠				
	項目「事例」		決裁・意見・委託・上程の別		
項目「事例」に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	図書				委員会
大短委-2021-17			担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課	
委員会設置の根拠（規程等）		図書委員会規程						
構 成	委員長	岡田和敏	副委員長	八尋春海	池田佐輪子	構成員数		
	委 員	前田由紀子	木村茂喜	相良かおる	八尋春海			
		池田佐和子	岡田和敏	垂水典子		7		
委員会の役割に関する事項（概要）	■図書、研究情報及び資料等に伴う予算配分に関する事項を審議する。 ■図書、研究情報及び資料等に関する事項を審議する。							
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	図書館資料費予算配分	図書館資料費予算配分の決定			決済			
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	除籍対象図書の承認	大学18冊、短期大学部51冊の除籍			決済			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	図書館資料費予算配分	決裁・意見・委託・上程の別		決済			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2021年度図書館資料費予算総額を、図書費・新聞雑誌費・データベース利用料に配分する。図書費の学科別配分は、学科の特性を考慮し、公平に行う。						
	↓	↓					過程の 評価	
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■図書費の配分額は、年度契約となる新聞雑誌費とデータベース利用料を総額から減じた額とする。■学科別図書費は、各学科の学生数、学納金額、図書貸出冊数の比率を算出して配分する。■「2021年度大学図書館資料費配分案」、「2021年度短大部図書館資料費配分案」を第1回図書委員会において審議し、承認した。						
	↓	↓					結果の 評価	
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2021年度図書館資料費予算配分は適正に行われた。■2021年度の大学の図書費：新聞雑誌費：データベース利用料の配分比率は27：49：24であった。2021年度は図書費：新聞雑誌費の比率は4：6だったが若干新聞雑誌費の比率が高くなってきている。雑誌の見直しを行う必要がある。						
	↓	↓					成 進 持 滞 退	
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2016年度に課題に掲げていた図書費：新聞雑誌費の予算配分比率4：6は達成されているが、配分率は外国雑誌の価格変動に左右されるため、今後も購読雑誌の見直しが必要である。						
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し							
	次年度見通し							

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
次年度見通し			
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
次年度見通し			

委員会の運営・通常 の審議経過等に係る計画/ 実施/評価に関する事項	P 計画 ↓	委員会の運営・通常 の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■図書館利用促進のために、委員へは図書館ガイダンスや貸出冊数などの利用状況を報告し、周知を図る。■蔵書の充実・適正化を図り、学生・職員の利用を促進する。■学生の返却遅れについて、教員に理解と協力を求める。			
	D 実施 ↓	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■毎年ガイダンスの告知及び受講状況や学科別の貸出数などの学生の実績を5月の委員会で示し、教員への周知を図ってきたが、利用実績の資料を作成することができなかった。ガイダンスについては、新型コロナウイルス感染防止のため、授業の中でのガイダンスやゼミからの依頼があったときのみの実施となった。■除籍図書を確認・承認し蔵書の適正化を図った。			過程の 評価 ☐ 順調 ☒ 遅延 ☐ 未実施
	C 評価 ↓	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■図書の選定については、全教員の69%が指定図書を選定して学生の利用促進に貢献した。■除籍すべき図書について確認・承認を行い、蔵書の適正化に務めた。■返却遅れの学生に対して、図書委員会で協力要請をしたことにより、多くの教員の協力を得ることができた。■遠隔授業や学内実習のためのDVDの購入についても学科で選定していただき購入した。			結果の 評価 ☐ 達成 ☐ 前進 ☒ 維持 ☐ 停滞 ☐ 退却
	A 改善 ↓	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■図書館利用促進のために、教員を通して図書館ガイダンスの受講を推進する。 ■蔵書を充実させ、図書資料の利用促進を図るため、教員の選書を推進する。 ■返却遅れの学生に対しては、今後も委員を通して協力をお願いしていく。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
	次年度 見通し				

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	除籍対象図書の承認	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	■資料の適正な管理のため「大学図書館除籍内規」に基づき除籍図書の承認を行った。■2021年度は大学18冊、短期大学部51冊の除籍を承認した。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
項目[事案]に係る規程上の根拠					